C 172　朝鮮通信使饗応食（第11報）　船中御見舞の折・重・樽について

長崎女子短大　○大坪藤代　　香川県明善短大　秋山照子

（目的）通信使への饗応接待は道中宿泊地での饗応および江戸での着、発、城中饗応（錫宴儀）があるが、その外に参向時兵庫、下向時淀での船中御見舞として折、重、樽が三使・上々官等へ贈られるのが慣例であった。そこで宝暦・文化通信使の贈物の内容及び経費について調査を行い、贈物の意義について検討した。

（方法）主として宗家記録類によった。

（結果）①易地聘礼となった文化信使でも副使脇坂中務大輔による御訪として2度贈られた。②対象は宝暦までは三使・上々官・通詞他であったが、文化では両使・上々官の5名となった。③文化での贈物の内容は表の通りで宝暦などとほぼ同じである。④贈物に要した費用は426両余、米価換算で2850万円程であった。うち17%は遠隔地による不慣れのための上乗せ分、9%は菓子職人派遣等人件費及び荷づくり費である⑤この贈物の費用は対馬（江戸）での三度の饗応食の1/15に相当する。

身分 / 贈物		正使・副使 1回目	正使・副使 2回目	上々官 1回目	上々官 2回目
折		菓子 5種	菓子 1種		菓子 3種
重	上の重	菓子 5	肴 5	菓子 5	
	中の重	肴 5	菓子 5	肴 3	
	下の重	肴 3	菓子 3	肴 3	
肴台					肴 5
樽		1荷（2斗）	1荷（2斗）	1荷（2斗）	1荷（2斗）

・1回目：参向に相当　2回目：下向に相当